

港区創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成事業におけるJ-クレジット創出に向けた 連携事業者採点表(事務局採点)

1 基本事項の評価 (提出された様式の記載内容から事務局が採点)			評価係数	A社			B社			満点	
				算定根拠	点数	得点	算定根拠	点数	得点		
(1) 同種業務の実績【様式4】【様式5】											
ア	同種業務の実績	プログラム型プロジェクトの運用及びクレジット認証実績があるか。 【採点基準】 運用件数20件以上 5点、15件以上 4点、10件以上 3点、5件以上 2点、1件以上 1点 ただし、認証実績0件の場合は上記ポイントから-1ptとする ※運用実績がない場合は条件を満たさないため選考外とする (別紙1:連携条件書>4 連携条件>(1)事業者によるプログラム型プロジェクトの提供)	×1							25	
イ	地方自治体との連携実績	過去3年間の地方自治体との連携実績(協定数)は豊富か。 【採点基準】 20件以上 5点、15件以上 4点、10件以上 3点、5件以上 2点、1件以上 1点 ※地方自治体との連携がない場合は資格を満たさないため選考外とする (募集要項>3 参加資格>(5))	×1							25	
(2) 創出可能な助成金対象メニュー数【様式6】											
ア	現段階で対応可能なメニュー	助成金メニューのうち現段階で何種類に対応できるか。 【採点基準】 対応状況に応じてポイントを算出し、合計ポイント数に応じて点数をつける ・太陽光発電システム(申請者区分すべて対応で2pt、1つ以上の区分に対応で1pt) ・エネファーム(区民向けのみ該当、2pt) ・照明機器LED化(申請者区分すべて対応で2pt、1つの区分に対応で1pt) ・空調機器更新(申請者区分すべて対応で2pt、1つの区分に対応で1pt) 8pt 5点、6~7pt 4点、4~5pt 3点、2~3pt 2点、1pt 1点	×3							75	
イ	今後対応を予定しているメニュー	1年後(令和9年4月時点)に何種類のメニューに対応できているか。 【採点基準】 対応状況に応じてポイントを算出し、合計ポイント数に応じて点数をつける ・太陽光発電システム(申請者区分すべて対応で2pt、1つ以上の区分に対応で1pt) ・エネファーム(区民向けのみ該当、2pt) ・照明機器LED化(申請者区分すべて対応で2pt、1つの区分に対応で1pt) ・空調機器更新(申請者区分すべて対応で2pt、1つの区分に対応で1pt) 8pt 5点、6~7pt 4点、4~5pt 3点、2~3pt 2点、1pt 1点	×2							50	
(3) 区のJ-クレジット取得【様式7】～【様式7-4】											
ア	区が取得するJ-クレジット量	区が取得できるJ-クレジット量は十分か。 【採点基準】 各事業者が様式7～様式7-4で提出したR15年度までに区が取得するJ-クレジット(t-CO2)を合計し、偏差値を求める。 偏差値計算式: (当該事業者提案における区取得量-全事業者の提案における区の取得量平均)÷標準偏差×10+50 ※小数点第1位を四捨五入 ※参加費型の場合は、参加費相当のJ-クレジットを取得量から差し引いて換算する 換算は、R8/1/30付の東京証券取引所における市場価格を採用する →参加費10万円/年、取引価格5100円/tの場合・・・19tを差引(小数点以下切捨て) ※様式7-5の提出があった場合は追加提案として扱う(2 企画提案の評価) 【得点の算出】 配点15点(5段階評価×評価係数「3」)相当として、偏差値に応じて15段階で得点を決定する。 点数 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 偏差値 25以下 26~30 31~35 36~40 41~45 46~50 51~55 56~60 61~65 66~70 71~75 76~80 81以上	-	$\text{標準偏差} = \sqrt{\frac{1}{\text{データ数}} \sum_{\text{データ}} (\text{各事業者提案での区取得量} - \text{全事業者の提案における区の取得量平均})^2}$							75
事務局採点小計								0		0	250
特記事項等											

港区創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成事業におけるJ-クレジット創出に向けた連携事業者採点基準表

審査(プレゼンテーション・質疑応答)			
候補者名		記入者	

1 基本事項の評価 (提出された様式の記載内容から事務局が採点)		劣	←	普通	→	優	評価係数	事務局採点	点数	満点	
		1	2	3	4	5					
事務局採点小計 (詳細別紙)											250
2 企画提案の評価 (委員による資料採点后、プレゼンテーション及び質疑応答を踏まえて確定)		劣	←	普通	→	優	評価係数	事務局採点	点数	満点	
		1	2	3	4	5					
(1) 報告等の方法【様式8】											
ア	区民・事業者の目線	区民や中小企業者等が参加登録や、定期報告しやすい仕組みか。 【審査ポイント】 ・参加登録時に提出が必要な書類数や入力項目(フォーマット)の見やすさ、使いやすさ ・参加登録時のステップ数(やり取りのラリーが必要か) ・参加登録の不備があった場合の修正方法(煩雑なやり取りが発生しないか) ・定期報告に必要な書類数や入力項目(フォーマット)の見やすさ、使いやすさ ・定期報告の対象者数(参加者全数調査か、サンプリングでよい場合はその割合)は適切か ・定期報告に必要なデータの取得又は蓄積は容易か					×4			100	
イ	区の事務作業の目線	事務作業においてミスが生じにくい手順になっているか。また、区職員の業務量増加を抑える工夫がされているか。 【審査ポイント】 ・区が担当する項目数(参加登録、定期報告それぞれ)と内容は適切か 特に連携条件書で「提案に基づき担当者を決する事項」について確認 例)参加登録時の受付業務、定期報告でのデータ収集(未報告者への催促含む) ・事業者から区に提供される作業フォーマット等はわかりやすいか(作業が明確か) ・誤ったデータの追加を防ぐ、又は入力後にエラーを通知し修正を促す仕組みがあるか					×4			100	
(2) 独自提案・発展性【独自資料】、【様式7-5】											
ア	ゼロカーボンシティ達成に向けた連携	2050年ゼロカーボンシティ達成に向けた包括的な提案が含まれているか。 【審査ポイント】 ・区が取りうる手段を複数提示しているか ・提示された手段は現実的な内容か、実施に必要な資源が示されているか ・脱炭素領域での先端事例や情報を踏まえた提案になっているか ・提案内容を実行すれば、2050年のゼロカーボンシティの達成が見込めるか					×4			100	
イ	将来性、創造性、発展性	本業務の将来性、創造性、発展性がうかがえる提案がされているか。 【審査ポイント】 ・現在の助成金制度の進化につながる提案が含まれているか ・区で実施している他事業との連動が見込めるか ・区でこれまで実施していない新規事業の実現につながる可能性があるか ・区が想定した項目以外のJ-クレジット化の提案があるか(様式7-5の提出があった場合)					×3			75	
(3) 本業務の目的・理解【独自資料】											
ア	目的に沿った提案	区が本業務を実施する目的を理解できているか。 【背景等】 ・機器等設置の助成金は、創エネルギー・省エネルギー機器を導入することで温室効果ガス(GHG)排出量を削減することを目的としている。 ・上記に加え、GHG排出量の削減効果に価値を見出し、J-クレジットとして形にすることで、2050年ゼロカーボンシティの達成につなげる ・現段階では、J-クレジットの活用方法は未定であり、まずは保有することとしている 【審査ポイント】 ・本事業の中心である、創エネルギー・省エネルギー機器等の設置促進につながる提案は含まれているか。 ・創出したJ-クレジットの活用方法が提案に含まれる場合、ゼロカーボンシティ達成に向け活用する提案になっているか(単に、歳入の確保という提案になっていないか)					×3			75	
イ	区の業務支援	区が区民・中小企業者等へ周知するにあたって、趣旨を理解した助言・協力をする提案になっているか。 【審査ポイント】 ・機器等設置費助成の利用促進や自発的な参加を促す周知の提案になっているか ・J-クレジット化の意義を区民・中小企業者等にわかりやすく伝える工夫があるか ・区民・中小企業者等が取組を継続しやすい工夫のある助言か ・参加者の報告時の区へのサポート・助言はあるか					×3			75	
(4) 事故・緊急時の対応【様式9】											
ア	社内連絡体制	事故や緊急を要する事象が発生した際の対応が具体的なかつ適切か。 【審査ポイント】 ・参加登録や定期報告で使用するシステムが停止した場合に即座に検知できるか ・万一情報漏洩が生じた場合に直ちに検知できるか ・異常を検知した場合の社内連絡体制は整備されているか ・事業者の担当者から区への連絡体制を整えることは可能か ・情報漏洩を防ぐための対策が取られているか (Pマーク認証、JIS Q 15001、ISO/IEC27001等の取得があれば加点要素)					×3			75	
企画提案の評価 小計											600
3 プレゼンテーションの評価		劣	←	普通	→	優	評価係数	事務局採点	点数	満点	
		1	2	3	4	5					
(1) 具体性【総合判断】											
ア	具体性	プレゼンテーションはわかり易く、具体的な時期や考えについての表記、発言となっているか。 【審査ポイント】 ・端的な表現を用いて簡潔に要点を押し込んでいるか ・協定締結後の想定スケジュールについての記載があるか ・中長期的な提案についても、おおよその実施時期の目途を含めた提案か					×3			75	
(2) 取組意欲【総合判断】											
ア	行動目標、熱意	本事業における具体的な行動目標、熱意はあるか。また、質疑応答においてコミュニケーション能力は十分か。 【審査ポイント】 ・事業者として、区との連携で成し遂げる結果を明示しているか ・プレゼンテーション時は、原稿読みを徹することなく、堂々と前を向いているか ・質疑応答時に明確な回答をしているか(曖昧な返事で濁さないか)					×3			75	
プレゼンテーションの評価 小計											150
合計点											1000

講評等 (ポイントとなった事項など)	